

発言No.

2

受付No. 5

令和7年11月18日

10時00分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 14 番

氏名 串崎 利行

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 農業の振興について

(1) 圃場整備事業の進捗と効果について

- ① 弥栄地区では現在圃場整備が進んでおり、区画の拡大や水路・畦畔・農道整備が行われている。圃場整備の進捗状況、対象面積、完了見込み年度を伺う。
- ② 圃場整備完了後の、作業効率の向上や農地利用の改善について、の効果を伺う。
- ③ 現れる効果について、市はどのように評価されるか伺う。

(2) 営農体制について

- ① 農業法人を中心に共同作業が行われているが、オペレーターの高齢化や担い手不足が進行し、圃場整備によって作業効率が向上しても、担い手がいなければ農地の維持は出来ない。地域の営農組織・JA・行政などと連携し、担い手の育成についてどのような支援策を考えているか伺う。
- ② 機械共同利用体制整備についての支援策を伺う。

(3) 担い手確保と新しい働き方への転換について

- ① 高齢化が進み、後継者不足の農家が増えており、整備された農地を将来に引き継ぐためには、若手・移住者・地域外の人材を含めた、新しい担い手の構築が必要だ。新規就農者への支援、研修体制の整備、空き農地のマッチングなど、実効性のある仕組みが必要と感じるが、担い手確保への新たな仕組みについて考えを伺う。

② 農業は単なる生産活動ではないと感じるが、農業の位置付けについての考えを伺う。

③ 新しい形の農業への参加を促す方策について伺う。

(4) 圃場整備後を見据えた持続的な農業モデルについて

① 圃場整備はゴールではなく、新しい農業の出発点として捉えているが、圃場整備完了後の営農支援やフォローアップについての考えを伺う。

② 必要と考えられる中期的な支援策について伺う。

③ スマート農業機器や ICT 技術を導入し、弥栄地域をスマート農業モデル地区として位置付ける考えはないか伺う。

(5) 生産部会について

① 農産物の生産を支える生産部会の統合や再編が加速し、全国的には約 20 年前から 3 割超減ったと聞けるが、市の状況を伺う。

② 産地の高齢化が急速に進む中、大規模な再編や統合で生産力やブランド力を強化しようとする動きも活発になっているが、市の考えを伺う。

③ 将来的な対策についての考えを伺う。

(6) 共同利用施設について

① 食料安保を支える共同利用施設の老朽化は深刻な問題である。施設の再編や集約化といった構造転換対策などが必要と感じるが、現在の状況を伺う。

② 将来的な対策についての考えを伺う。

2 ハンター育成について

① 相次ぐ熊被害を受け、ハンターの育成が注目されており、銃による熊の駆除は経験が必要とされている。狩猟者の育成や確保を早急に検討する必要があるが、市の考えを伺う。

② 猟友会の現状を伺う。

③ ガバメントハンターについて市の考えを伺う。